

エージェンシー Agency

学校教育目標「みんなの笑顔があふれる学校」

大津中学校通信 令和4年7月11日号

学校経営の4つのキーワード

①「信頼して、任せて、支える」

「おとなは18歳から。でもたばこは違うから」

薬物乱用防止教室



7月6日に1年生が薬物乱用防止教室を行い、学校薬剤師の鈴木田恵一先生(むろ薬局)にご講演をいただきました。

スライドを使って、たばこやアルコール、薬物などが身体に与える影響について丁寧な説明がありました。表題は今年の薬物乱用防止のポスターから引用したものです。正しい知識と断る勇気を持ち続けてください！

「チーム研」始まる！

校内研修



6月30日の校内研修は、本年度から取り組む「チームによる協働的な課題解決型研修(チーム研)」を各チームに分かれて行いました。

教職員に求められる業務が複雑化する中で、先生方の資質・能力の向上は授業や学級経営に好影響を及ぼし、子どもたちの資質・能力の育成につながるはずだと考えます。先生方の主体的・協働的に学び続ける姿にご期待ください！

怒らない親が増えて困る？

子どものしつけができていないと「怒らない親が増えて困る」と言われることがあります。それは本当でしょうか？

他者を変える方法には「怒る」以外にも、「諭す」、「説得する」などがあります。「怒る」という行為には攻撃性をはらみ、怒られた側は恐怖や苦痛、不安などのネガティブな感情体験を伴います。脳科学的には、「怒る」と「罰を与える」とことは大差がないと言われています。怒られた側はその恐怖を二度と体験しないために行動を変えるだけであり、どう振る舞うべきかを本当に学習したわけではない場合が多いのです。そのため、同じような不適切行為を繰り返す可能性が高くなります。

さらに、怒られることが常態化している場合、怒られることに慣れてしまうため、怒る側がもっと激しく怒るという悪循環が生まれやすくなるとも言われています。そのため、怒ることの延長上に虐待やDV、パワハラなどの社会問題が発生しやすくなることも指摘されています。

「怒らないとしつけはできない」「怒られないと、きちんとした大人に成長しない」…。それは単なる思い込みで、科学的な根拠は乏しいかもしれません。

なおこのことは、保護者だけのことでなく、私たち教職員にも言えるかと思えます。熊本県の教育行動指標にあるように「認め、ほめ、励まし」ながら、温かい眼差しで子どもたちを育てていきたいと考えています。